

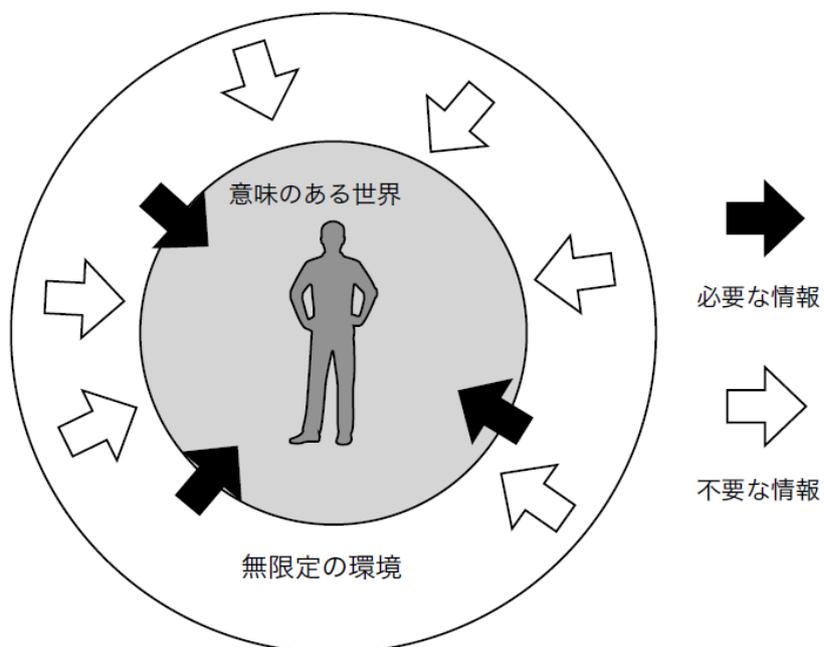
問 1

(1)

- A 人間は自らの閱歴と記憶、意欲と想像力によって、環境から自分に適した存在領域を知覚・選択し、人生の舞台を作り上げてゆく。
- B 子どものためを思って大人がやっていることが、かえって子どもの心の中の自然を破壊してしまうという問題が現代では生じている。
- C 身体内外の情報に優先順位がつけられず、必要のない情報まで受け取ってしまう状態に陥ると、人間は一つの行動に集中できない。
- D 自分の当たり前が通じない環境に身を置いたり、自分とは異なる背景を持つ他者と接することで、情報生産性を高めることができる。
- E 人間と動植物とそれらを取り巻く環境の健康は相互依存の関係にあるため、専門分野を超えた協働によって追求していく必要がある。

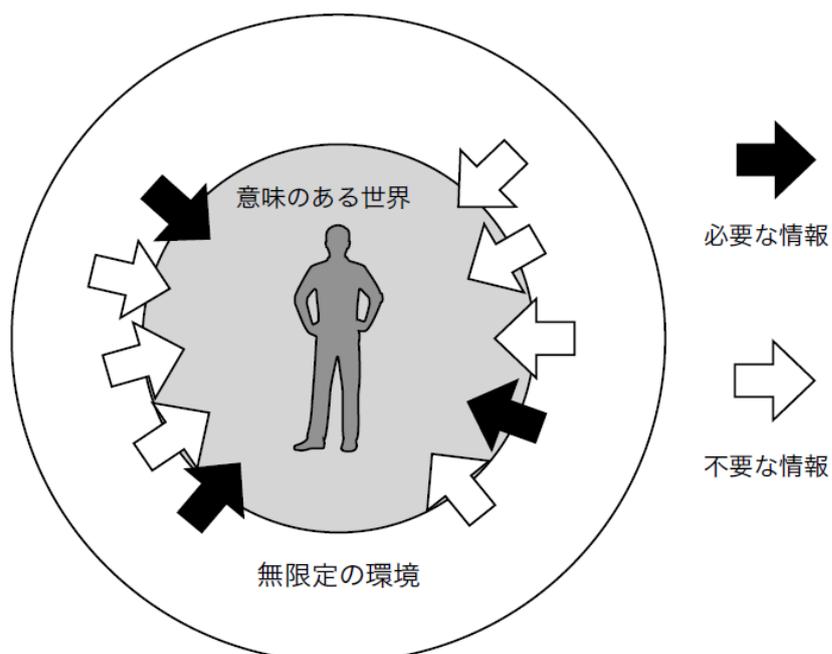
(2)

選んだ文章 A



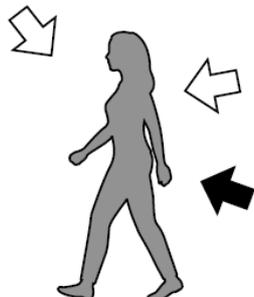
選んだ文章 C

アスペルガー症候群



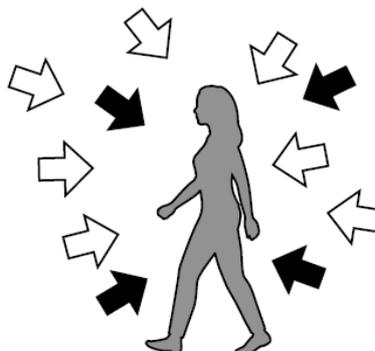
選んだ文章 D

あたりまえの環境



ノイズ (矢印) の総量が少ないため  
意味のある情報 (黒矢印) も少ない

システムの周辺



ノイズ (矢印) の総量が多いため  
意味のある情報 (黒矢印) も多い

問 2

(1)

我が国が人口減少に悩まされている一方で、世界人口は増加し続けており、それに伴い人類全体が使用する資源量も増加し続けている。ここでいう資源とは石油や天然ガスといったエネルギー資源のみならず、鉱物、食料、飲料水なども含む、人間が社会生活を営む上で有用なものの全般を指す。これらの資源は有限であったり、あるいは再生可能であってもその再生サイクルを人間の消費活動が上回っていたりするなどして、その枯渇が問題視されているものが多い。資源の枯渇は経済活動の停滞を引き起こすのみならず、世界中に貧困や飢餓を蔓延させる。また限られた資源の奪い合いが激しさを増せば、国際社会に軋轢が生じ、地球全体を巻き込む戦争を引き起こしかねない。つまり資源の枯渇は全人類の社会生活や生存に影響する問題であり、それゆえにこれからの時代において特に重要となる問題である。

(2)

資源問題の解決策といえば、一般的には科学技術の発展による生産性の向上や効率化、或いは資源使用量に関する国際協定の実現といった方法が示されることが多いだろう。しかし私がここで唱えたい解決策は、資源概念の拡大である。

文章 A で示唆されていたように、我々は環境から与えられる無限の情報の中から、自分たちに必要なもの、有用なものだけを選び取って環境を形成している。裏を返せば、我々は自分たちに不要なものや役に立たないと思っている膨大な情報を、無意識に捨象しながら生きているということだ。この構図は恐らく資源についても当てはまる。先に資源とは人間の社会生活に有用なものの全般であると定義したが、それはつまり人間は環境から与えられる無限のモノのうち、自分たちに必要なものだけを資源として選び取り、他のモノを捨ててきたということでもある。もしこれらの「これまで捨てられてきたモノ」の中から有用なモノを見つけ出すことができれば、つまりこれまで資源と認識されてこなかったモノを資源という概念の中に取り込むことができるならば、この問題の解決の糸口が掴めるはずだ。

そのためにはまずこれまで見過ごされてきた要らないモノ、視界に入っていないながら見えていなかった無価値なモノを、改めて一つずつ見つめ直していく必要がある。そこで私は貴学部において世界中のあらゆるゴミについて研究していこうと思う。世界を研究領域にする理由は、文章 D で述べられているように、異質な文化と接触することが情報発生を活性化し、価値観の転換を引き起こしやすいと考えるからだ。世界中のゴミ、要らないモノの中から新たな資源を見つけ出すことができた時、私は資源の枯渇という問題の解決に必ず貢献できると確信している。